

現場見学会 次第

主 催 一般社団法人大阪建設業協会
協 力 壺山建設株式会社
日 時 平成 27 年 11 月 11 日 (水)
14:00～16:00
場 所 和歌山岬道路中孝子地区本線改良工事

1. 建設現場概要説明等

2. 現場見学

3. 質疑応答

見学時には引率者が付きますので、指示に従って行動をお願いします。

【注意点】

- ① 安全のため、見学エリア以外には立ち入らないようお願いします
- ② 現場作業中の機械に注意。（引率者の指示に従ってください）
- ③ 工事機械、工具等には触れないようお願いします。
- ④ 足元が悪いので注意願います。

布施工科高生がインフラ最前線と建設最前線

大建協見学会

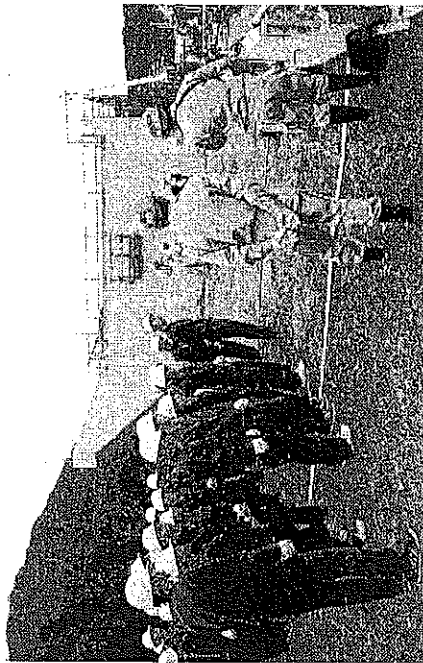
壺山建設施工 第二阪和・和歌山岬道路中孝子地区本線改良

(一社)大阪建設業協会による高校生を対象とした現場見学会が十一日に行われ、大阪府立布施工科高等学校建築システム専科三年の生徒四十人が、工事が進む「第二阪和国道・和歌山岬道路中孝子地区本線改良工事」(大阪府泉南郡岬町、国土交通省近畿地方整備局発注、施工：壺山建設)の現場を見て回った。

生徒らは用意されたバスに乗り、同校から出発。午後二時に現場に到着。建設現場で築造されたボックスカルバート内に集まり、壺山建設の現場代理人、監理技術者が、道路の基本構造(盛土、切土、橋脚下部)や工事概要などを説明した。

その後の見学では、躯体が構築されたボックスカルバートの側面に生徒達が将来の夢を書いたり、上部工が進む中孝子高架橋の様子を和歌山側のA2橋台の背面部から見て、そこで採用されている路体盛土のテールメ(補強土壁)の説明を受けた。

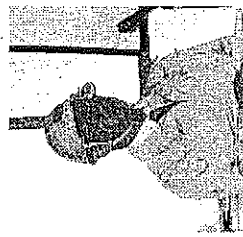
見学を終え、事前に生徒が用意していた質問にそれぞれが回答。なかでも女性技術者の比率をどの質問には、「今後、採用していく予定で、今回を境にぜひ当社を考慮してほしい」と呼びかけた。そして施工者を代表し



最前線の建設現場の状況を目の当たりにした布施工科高等学校の生徒ら

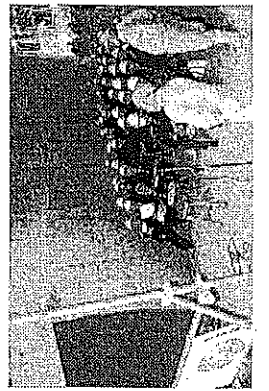
て壺山建設の壺山直次専務取締役事業本部長が阪神淡路大震災や東日本大震災をはじめとする災害復旧に携わってきた事を挙げながら「建設業は通常のインフラ整備に加え、緊急有事への対応、社会貢献など人々の生活と安全を守る第一線で活躍するやりがいのある仕事だ。建設の勉強をしている皆さんは、ぜひ建設業に足を踏み入れてほしい」と壺山専務取締役事業本部長

いとエールを送り、参加した女子生徒は、将来の建設の仕事に就こうと願っている。今日の体験を今後にかけて生きてい



「ぜひとも建設業に入ってください」と壺山専務取締役事業本部長

い」と述べた。
「第二阪和国道」(阪南市自然田、和歌山市大谷間二〇・六)は、大阪と和歌山を結ぶ国道26号の機能的な設備等の解消を目的とした。二十二年三月に完成した箱ノ浦ランプ・淡輪ランプ間二・八キロを含めて、起点側から淡輪ランプ間九・〇



ボックスカルバート内で工事概要、道路の基本構造の説明が行われた

区間が暫定三車線開通済みで、この九月十二日に和歌山市大谷(大谷ランプ)・平井(平井ランプ)間二・八キロが暫定三車線供用した。

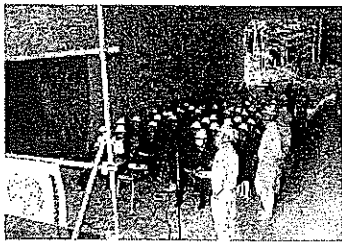
現在、淡輪ランプ・平井ランプ間七・六キロが平成二十八年度暫定三車線開通供用に向け、工事展開している。

大建協
BOXカルバ
ートを教室に
布施工科高校の
40人が現場見学

ボックスカルバートが教室に。11日に行われた大阪建設業協会主催の現場見学会で、布施工科高校建築システム専科の2年生40人を招待した壺山建設は、同社が施工する和歌山岬道路(第二阪和国道)の建設現場で築造したボックスカルバートを教室として利用するなど、粋な計らいを見せた。

こうした見学会では、

現場作業所の会議室を利用することが多い。同社事業本部の壺山信次本部長は、「建設業にいいイメージを持ってもらうことが将来の人材確保につながる。大学卒、高校卒にか



BOXカルバートを教室として利用

かわらず一緒に働ける人材を求めている」と趣向を凝らした理由を説明する。

今回の現場見学会では、ボックスカルバートの側面に生徒らが将来の夢を書いたり、ポッキーの日(11月11日)にちなんで

見学会を終えた生徒らにポッキーが配られた。

参加した女子生徒は、「建設業界に入りたいと思っている。きょうの経験が今後の勉強に生かしたい」と感謝の言葉を述べるなど、印象に残る見学会となったようだ。

布施工科高生ら40名が参加

和歌山岬道中孝子本線改良で現場見学 大建協

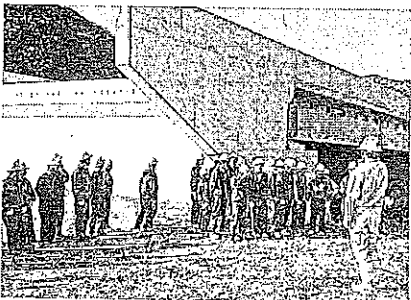
大阪建設業協会は、若年建設従事者の入職促進事業の一環として11日、大阪府立布施工科高校2年生を対象に和歌山岬道路(第二阪和国道)中孝子地区本線改良他工事で現場見学会を開催、同校の建築システム専科の生徒40名と教諭が参加した。同工事は近畿地方整備局の発注で、施工は壺山建設が担当。所在地・岬町孝子。

現場では道路の基本構造や工事概要の説明を受けたあと、中孝子地区本線改良他、中孝子高架橋下部他、中孝子北地区改良の3つの現場を見学。橋台やボックスカルバート、橋脚、盛土などの工事の様子を見て回ったほか、ボックスカルバートの壁面に生徒たちにそれぞれ将来の夢を書きつけてもらった。

また生徒らは「土木と建築の違いは、年間で休暇は何日ぐらいか」「建設業で一番大事な気構えは」など担当者に熱心に質問していた。



概要説明に聞き入る生徒ら



橋脚工事の様子を見学

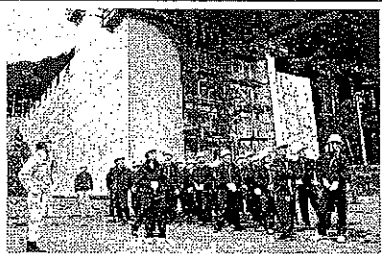
11月13日(金) 建設工業

布施工高40人が
和歌山岬道を見学

大建協

大阪建設業協会(大建協、奥村太加典会長)は11日、近畿地方整備局が大阪府岬町で工事を進めている「第二阪和国道(和歌山岬道路)」の現場で見学会を開いた。写真。将来の担い手確保につなげるのが目的で、府立布施工科高校建築システム専科2年の40人が参加。工事途中の現場を歩き、橋梁の下部工や盛り土工などを学んだ。

見学会は、壺山建設が施工を担当する「和歌山岬道路中孝子地区本線改良他工事」など3現場で行われ、最初に工事担当者からトンネルや橋梁、盛土など道路の基本的な構造を説明。ボックスカル



バートや橋台、橋脚、盛り土など各工事の概要や進捗よく状況とともに、現場作業所の仕事内容なども紹介した。その後、歩いて各工事の現場を見学した。

完成したボックスカルバートでは、供用後は見えなくなるコンクリートの壁面に将来の夢を書いてもらい、「1級建築士になりたい」「施工管理士になりたい」など建設関係を目指す生徒も多く見られた。高架橋現場では間近に見る橋脚や橋台の大きさに圧倒されながら担当者の説明に耳を傾けた。

「施工管理は何をするのか」「土木と建築の違いは」「女性技術者は何人いるか」など質問も相次ぎ、普段見られない工事現場や仕事内容に興味津々の様子だった。

壺山建設の壺山信次専務は「建築を勉強しているからには建設業に一步でも足を踏み入れてほしい。皆さんは金の卵です」と述べ、最後に女子生徒が「将来は建設業に携わりたい。今日の経験を生かしたい」と話した。